

乙 第 号

森岡佐知子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	大林千穂
論文審査担当者	委員	准教授	田中利洋
	委員(指導教員)	教授	小林 浩

主論文

Magnetic resonance imaging findings for discriminating clear cell carcinoma and endometrioid carcinoma of the ovary.

卵巣明細胞癌と類内膜癌の鑑別に関する MRI についての知見

Sachiko Morioka, Ryuji Kawaguchi, Kana Iwai, Yuki Yamada, Chiharu Yoshimoto,

Hiroshi Kobayashi

Journal of Ovarian Research. 2019 Feb 25;12(1):20.

論文審査の要旨

子宮内膜症関連卵巢癌（Endometriosis-associated ovarian cancer、以下 EAOC）には明細胞癌（clear cell carcinoma、以下 CCC）と類内膜癌（endometrioid carcinoma、以下 EC）が多いが、CCCは悪性度が高く、化学療法抵抗性の組織型であるため、両者を鑑別することは重要である。本研究ではMRI検査におけるCCCとECの鑑別点を明らかにすることを目的とし、CCC52例、EC46例を後ろ向きに検討した。2群間で患者背景に有意差はなかった。単変量解析では、結節の発育パターン（幅が広い結節/ポリープ様結節）、結節の連続性、結節表面の構造（平滑/整と粗雑/不整）、結節の幅、結節の高さ/幅、腹水の有無の6項目に有意差を認め、腫瘍径と結節の高さには有意差を認めなかった。多変量解析では、結節の発育パターンと結節の高さ/幅の2項目に有意差を認め、これらがCCCをECから鑑別するのに有用な項目であると考えられた。この形態的な相違はCCCの発生にはHNF-1 β が、ECの発生にはERが関与する発癌メカニズムの違いが反映されている可能性がある。

本研究は卵巢がんにおいてMRI画像所見から組織型推定の可能性を示し、また腫瘍発生機序への示唆に富むものであり、有意義な臨床研究と評価される。

参 考 論 文

1. Two Cases of Dedifferentiated Endometrioid Carcinoma: Case Presentation and Brief Review of the Literature.

Morioka S, Tanase Y, Kawaguchi R, Uchiyama T, Kobayash H.

Case Rep Obstet Gynecol. 2018 Sep 25;2018:7624785.

2. Conceptual frameworks of synthetic lethality in clear cell carcinoma of the ovary.

Kobayashi H, Kawahara N, Ogawa K, Yamada Y, Iwai K, Niuro E, Morioka S.

Biomed Rep. 2018 Aug;9(2):112-118.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに女性生殖器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和元年9月10日

学位審査委員長

病理診断学

教授 大林千穂

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

准教授 田中利洋

学位審査委員(指導教員)

女性生殖器病態制御医学

教授 小林 浩